

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500182
法人名	有限会社 うれし舎
事業所名	グループホーム うれし舎
訪問調査日	平成 20 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670500182		
法人名	有限会社 うれし舎		
事業所名	うれし舎		
所在地 (電話番号)	鹿児島県 いちき串木野市上名 6303-9 (電話) 0996(32)5061		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】20年9月11日)事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14.5

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	0,000(光熱費)円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(8月1日)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	10 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鹿児島こども病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの裏には田んぼと竹林、窓からは田園風景が広がり四季の移ろいを肌で感じ、目で楽しむことのできる自然豊かな場所に「うれし舎」がある。木造二階建ての建物には木をふんだんに使っており木の香りに溢れている。室内は三つの居室に対し一つのトイレと二つの洗面所という配置になっており、居室からトイレまでの距離が短かく利用者にとっては使いやすく作られている。職員は利用者の笑顔を大切にしており、その人らしく笑顔で明るく、日々を過ごせるようにとケアにあたっている。近隣の方々との交流も深まり、ホームの敬老会などに参加してもらったりしている。経営者も職員も「ここがよか」と、言ってもらえるホーム作りを実現している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成18年度の改善点については、話し合いがなされ改善に向けた取り組みが行われているが今後は話し合いの内容の記録を残しておかれることを希望します。現在も取り組み継続中の項目もある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、日頃のケアについて振り返る良い機会と捉え管理者と職員で話し合いまとめあげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成18年6月より不定期に3回行われている。家族代表、公民館長、婦人会会長、包括支援センター職員、利用者、経営者などが参加して行われている。討議内容は事業所の報告などで、参加者の有効的な意見を引き出すまでに至っておらず、今後の討議内容などの検討を行って多くの外部の方々の意見を参考にして事業所の運営に反映させていかれることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を玄関に設置しているが、意見や要望は面会時などに何うようにしている。家族の意見や要望があった時には、申し送りノートに記載し職員全員で共有し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の花祭り、保育園の夏祭り、文化祭へ出展したりしている。また、中学校の職場体験なども受け入れている。事業所で行う敬老会に近隣の方を招待して参加してもらっている。近隣の方から野菜を頂いたり、お返しに野菜の煮物を届けたりと日頃から交流している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者が今まで住み慣れた土地・過ごしてきた時間を大切に、この施設でも自分の家に居ると同じような気持ちで日常生活が送られるように最適なサービスを提供することを目標にします」という理念を作り上げている。		地域密着型サービスの意義を理解し、事業所独自の理念を全員で話し合いながら作られることを希望します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに理念を掲げ、申し送りやカンファレンスで理念を復唱し職員が共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の花祭りや文化祭への出展、保育園の夏祭りに招待されたり、中学校の職場体験を受け入れたりと交流している。また、事業所で行っている敬老会に近隣住民の方を招待し参加してもらっている。近所からの野菜の差し入れもあり、日頃から親交を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成18年度の外部評価については、改善ポイントについて話し合い改善に向けた取り組みが行われている。今回の自己評価についても、日頃のケアについて振り返る良い機会と捉えて管理者と職員で取り組み作り上げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月より不定期に3回行われている。利用者、家族代表、公民館長、婦人会会長、地域包括センター職員、経営者などが参加している。事業所の報告などを行い参加者の意見や理解を求めている。		運営推進会議は幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の方々の目を通して事業所の取り組み内容や課題について話し合う場になるように、積極的に取り組んでいかれることを希望します。

鹿児島県 グループホームうれし舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新時や書類上の記載についての相談などで担当部署へ出向くことも多く、情報交換をしながらサービスの向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書と一緒に利用者個人の写真や、事業所の行事内容の報告・職員の退職や入職についての報告などを「うれし舎からのお知らせ」として送付している。金銭出納については、6ヶ月に1度出納簿をコピーし領収書を添付して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作られていない。家族からの意見・要望は面会時に伺い、出された意見は申し送りノートにて職員は共有している。洗濯物が紛失するという申し出に対し、利用者専用のハンガーを用意するなど、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職については利用者に前もって伝えているが、辞めると言わずに2階、1階に異動すると伝えて、少しでもダメージを抑える工夫をしている。また、新しい職員にはコミュニケーションをとることを一番大事にしてもらうように指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として研修の年間計画などは立てていないが、外部の研修については職員が研修したい内容を選んで参加している。今年度は精神的ケアの一つとしてユニット間の交流を深める為に、レクレーションを充実させようと職員が交代でレクレーションの講習に参加している。		新人教育のマニュアルや事業所が行う研修の年間計画を作成し、職員を段階に応じて研修することでケアの質の向上にもつながる事と期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	串木野・川内地区のネットワーク作りがなされており、講習会や管理者の交流などが行われている。9月末にはグループホームのスタッフの研修会が予定されている。		経営者・管理者は事業所の開設前に他の事業所に研修にいったり学んできているが、これから職員が他の事業所の職員と相互訪問を進めていくことで、自分の事業所の良さを発見することができケアの技術の向上、サービスの質を向上させていく事につながることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者と家族に来てもらい見学しながら雰囲気にならなうように配慮しているが、居宅支援センターなどの紹介で家族だけが見学に来ることが多い。今後は体験入所もできるように検討しているところである。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から野菜の作り方やだご作りを教わってもらったり、職員と一緒にすいか割りやそうめん流し、わたあめ作りをしたりと共有することを大切にしており、利用者から「ありがとなー」と言われるとき、笑顔がみられ職員は癒されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>月1回から2回のカンファレンスを行い利用者の思いを把握している。また、日頃の会話などから本人の意向を把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議で職員の意見や家族の意見・要望などを聞いて、介護計画を作成している。また、かかりつけ医の意見なども取り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>病院での入院で歩行困難な状況になった場合など、筋力低下を防ぐ為のケアプランに、家族や医師の意見を取り入れながら変更している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が自宅に行きたいという要望がある時に、自宅までの送迎や見守り、墓参りなどの支援を行っている。また、家族からの要望で、通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通院してきたかかりつけ医との関係を重視している。通院介助の結果については、体調に変化がない場合には、月の請求書と一緒に報告内容を同封し、変化があった場合は電話等で対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や家族との話し合いで最終的には、利用者本人・家族の意思を最大限に尊重しているが、事業所では医療行為を行うことができないので終末期は医療機関に行ってもらおうことになると考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては注意を払っており、書類は鍵のかかる部屋に保管している。職員には漏洩防止の誓約書に署名してもらっている。また、利用者に対してプライバシーを損ねるような声かけには十分注意をしており、管理者も職員を指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間については強制しておらず、自分の体調に合わせてゆっくり起きられる利用者もいれば、夜は職員とおしゃべりを楽しむ利用者もいる。朝から畑に出て作業する方、自宅へ行かれる方、芝の手入れをする方等一人ひとりの思いを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や下ごしらえ、配膳、下善など自分の力量に応じて手伝っている。食事は利用者と職員が同じテーブルを囲み談笑しながら、さりげなく食事の介助を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日まで午前中だが毎日対応している。利用者の希望があれば午後や夜でも対応している。入浴の順番は決めてはあるが、畑仕事をしていた方を先にしたり、拒否される方は夜に声かけすると素直に応じてくれるので夜にしたりと工夫をしながら入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日昼食・夕食の材料の買出しに行くので、利用者も一緒に行ったり、洗濯物を畳む人、拭き掃除やモップがけ、畑仕事、芝生の草取りなどそれぞれの役割を持っている。また、楽しみごとではドライブを兼ねて海や山に行った帰りに、レストランに寄って食事をしたり、花見に行ったりと支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1階のリビングから直接ウッドデッキに出られるようになっていて、そこで日光浴したり、お茶を楽しんだり、散歩に出かけたり、夏は玄関のベンチに座って涼みながらおしゃべりしたり、職員と買い物に行ったりといつでも出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵をかけていない。外出傾向のある人は把握しているが今は落ち着いているので特に問題になることはなく、地区の駐在所とも連携体制をとっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回消防署の指導の下、防災訓練を実施している。また、応急手当の方法や初期対応についても指導してもらっている。台所にはスプリンクラーが設置されている。夜間想定訓練については検討中である。地域の方からの協力を得られるように公民館長から連絡してもらっている。		

鹿児島県 グループホームうれし舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量については把握し職員が共有している。水分の摂取量は1日1500ccから1800cc飲んでいただけるように配慮している。カロリーについては職員が勉強しているところであり、栄養士に献立をみてもらったことはないが野菜を献立のなかに多く入れてバランスを考えている。		
2、その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使い建てられているので木の香りが漂い落ち着ける雰囲気である。リビングの壁には利用者と一緒に作った季節の壁飾りや笑顔あふれる写真が貼られている。1階リビングからウッドデッキが広がりお茶を楽しむこともできる。2階からは季節の移ろいを眺めることができ、思い思いのソファの場所に座り過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのベットがあるがそれ以外は使い慣れた物や好みの物を持ってきている。タンス、ソファ、パイプハンガー位牌や家族の写真、自分で作ったカレンダーやぬりえなど、また趣味で弾いていた大正琴、太鼓、ゴッタンなどがあり居心地よく暮らせるように工夫している。		